

**児童・生徒の現状・課題**

新たな課題に対して、これまでの学びから解決の糸口を見つけたり、別の手段はないか考えたりして粘り強く取り組むことができず諦めてしまう側面がある。知識の積み上げがなく、日常の学習内容が理解できなかつたりする。



**学び続ける力を育むための重点目標**

学習課題に対して自分の考えをもち、他者と関わり合いながら学び、「楽しかった」を実感できる授業を実現する。



**具体的な手だて①**

児童が「めあて」や「課題」を捉え、見通しをもって学習に取り組むことで自分の考えがもてるように、1時間の授業で何を学ばせるのか、何を身に付けるのかを考え、必要な指導を工夫する。

**具体的な手だて②**

安心して考え、表現できる学級の雰囲気をつくり、自分のよさや友達のよさを認め合える関係を築くため、全教育活動で人権教育を充実させる。

**具体的な手だて③**

児童自らが学習方法を選択する場面を設定し、自己決定させることで、学習に対して前向きに取り組めるようにする。



**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・月ごとに授業改革シートを活用したOJT研修を実施し、日常の実践について共有したり、意見交流したりする。
- ・授業観察時の指導案に「児童が楽しく分かる学習にするための工夫」を書き、互いに授業を見せ合い、改善に向け事後協議を行う。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	71%	85%	
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	75%	85%	

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	95.7%	100%	
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	100%	100%	

**総括(5月)**特に課題となるのは、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む力」と「既習事項を基に自分の考えをまとめる力」である。主体的な学びを確立するため、学習方法を選択する場面を設定することと、安心して意見交流ができる学級の雰囲気を教員が構築していく必要がある。日常的なOJTを通じて、全教職員が授業改革を推進していく。

**総括(1月)**